



業界の緩やかな衰退に思い切った改革を断行

世の中の消費動向は激しく変動し、一世紀以上続く老舗の酒蔵も安閑とはしてられない。昨日までのやり方が今後も通用するとは言い切れない時代、価格競争に走れば更なる社業の衰退にもつながりかねない。誰に何を売なのか、その根本から考え直し、思い切った路線変更を断行した酒蔵がある。

新政酒造株式会社  
代表取締役社長 佐藤 祐輔氏



秋田の伝統的産業の低迷から  
経営の世代交代で脱却を図る

新政酒造は創業から160年あまりになる秋田を代表する老舗の日本酒醸造元だ。元来、日本酒は灘・伏見や広島などの西日本が主産地であった。しかし大阪で醸造学を学んだ五代目当主の時代に、後に「きょうかい6号」となる低温耐性の蔵付き酵母が、国税庁技師によって新政の蔵から採取され、これが頒布されたことで東日本でも銘酒が造られるようになった。清酒の近代化の端緒となった出来事である。

しかし近年は生活の洋風化や酒類商品の多様化もあって日本酒の売れ行きは芳しくなく、新政も例外ではなくなっていた。

抜本的な経営改革に取り組み始めた時期の平成24年4月に社長職に就いた佐藤祐輔氏は今年39歳。元々はライター業という全く違う世界に身を置いていて、秋田に戻るつもりも家業を継ぐつもりもなかったが、ライターの仕事の一環として日本酒のことを調べているうちに、実際に自分でも日本酒を造ってみたいという思いを抱くようになったと言う。

思い切った経営戦略の変更で  
業界全体の変革の先陣を切る

酒造りも創作のひとつとして表現活動に通じるものがあつた。経営も厳しい局面であったことから、思い切って自分の理想とする純米酒(醸造用アルコール無添加)造りに特化した。これは大量生産や品質の均一化の否定ではなく、昭和初期に日本酒の近代化に大きく貢献した五代目・佐藤卯兵衛に敬意を表し、そして当時(戦前)の日本酒の味を再現したいという思いによるものであつた。酒造りの伝統という視点においては原点回帰とも言える。

「味は10年前の新政の酒とは全く違うし、極端なことを言えば毎年違います。敢えて安定した味にしようとは思いません。今年の新政の酒はどんな味に仕上がったかと、そんな飲み方を楽しむ愛飲家を想定しています。分かる人にだけ分かってもらえればいいというこだわりの酒造りで、絵画を販売する感覚にも似ているのではないですか」(佐藤社長)

すべてを純米酒とした結果、出荷量自体は減ったものの、商品としては利益率の高いもの

となったため、売上高は安定水域で推移するようになったという。

佐藤社長は、自分の会社の経営改善も大事だが、日本酒そのものの価値、評価を高めることに取り組んでいきたいという。

「酒造りの教科書を開くと、最初に出てくる蔵の名前が新政なんです。酒造りに用いられる清酒酵母の中でも現役最古の[6号酵母]の発祥蔵ですから。そんな歴史のある蔵が思い切ったことをやれば、同業の若い人たちも刺激を受けて業界全体の活性化につながっていくのではないかと考えています」(佐藤社長)

同業他社との連携も深めつつ  
次代を見据えた酒造りを目指す

佐藤社長を含めた県内五つの酒蔵の若手経営者5名は、「NEXT5」という技術交流グループを組織している。酒造会社の経営者でありながら自ら直接酒造りに携わりたいと思い立った時に、スキルやノウハウの不十分な部分を補うために、同じような境遇の仲間と情報交換し、かつ、次世代指向の酒造りに挑戦していこ

うという狙いだ。

佐藤社長は、将来的には会社として農業も手がけたいと考えている。自分で造る酒の原料になる酒米を自分の手で育てたいという思いはもちろん、米に限らず農作物全般の生産にも関心がある。農家の高齢化や後継者難で日本農業の衰退が危惧されることもあり、自ら農地を取得して雇用も生み出し、農業生産から酒造りまでを秋田で一大産業にしたいと考えている。既にあちこちで公言しているのであとには引けないところまで来ていると佐藤社長は笑う。

秋田の酒造りは、蔵元も意欲ある若手に世代交代が進み、次の時代を見据えた取り組みが始まっているようだ。

新政酒造株式会社

〒010-0921	■創業/嘉永5年(1852)
秋田県秋田市大町六丁目2番35号	■資本金/1,500万円
Tel.018-823-6407	■売上高/5億円
Fax.018-864-4407	■社員/17名
http://www.aramasa.jp/ info@aramasa.jp	■事業内容/清酒「新政」の製造販売



A 秋田の酒蔵では唯一、木桶を使った酒造りを行っている。  
B 佐藤社長と古閑醸造長は同世代でもあり酒造りにも息があつたところを見せている。社員の平均年齢も三十代と若い。  
C 近年の新政の酒はラベルのデザインも斬新で、独自の路線を歩み出していることが伝わってくる。小ロットの製品も多いため瓶詰めを手作業で行うこともある。  
D 古閑醸造長は哲学科出身で劇団にも在籍したというユニークな経歴の持ち主。  
E 平成24年4月に経営を引き継いだ佐藤祐輔社長は39歳。自身も実験的な酒を造ったり実験的な工程を試すなど自ら酒造りに携わっている。

